



だより



R7.5.22 Vol.8

大丈夫ですか？

先週の事です。少し体調を崩し、2、3日、学校を休みました。土日をはさんで出勤すると、登校指導中、ひまりさんが「あ！大丈夫ですか？」と声をかけてくれました。担任ならいざ知らず、校長は担任のような日々の関わりがあるので、休んでいることを知らない子供の方が多い気がします。そんな中での「大丈夫ですか？」

人は人から存在を認められることで自己の価値を感じ安心感や喜びを得る「社会的動物」と呼ばれています。

私自身も努めて子供たちに声をかけることは意識していますが、声をかけてもらう嬉しさを改めて実感した気がします。

関わりがあるから声をかけあう。
声をかけあうから関わりが生まれる。
当たり前のことですが、大事にしたいことですね。



力をもらう

若い頃、高齢者の方々が子供たちの活動する姿を見て「明日も頑張る力もらえたわい…。」そんな話をしているのをよく聞きました。『そうかなあ…どっちかという日々、活動の中で自分のエネルギー削ってるけどなあ。』そんなことを思っていました。

担任を離れ、今の立場になり、年齢もそれ相応になってきました。先日、運動会のダンス練習をしている高学年の様子を撮影ついでに見に行きました。一生懸命踊る子、ダンスを楽しんでいる子、十人十色でしたが、そんな子供たちの笑顔を見ていると「なんか…俺も頑張ろ…！」そんな気持ちになります。学校がなくなると地域が廃れていく。そんな話をよく聞きます。子供たちのエネルギーってすごいんだなってこれまた改めて実感。

いつまでも地域にエネルギーやパワーを贈る！
そんな真穴小学校を作っていきたいと思います。

四方山話真穴 ver2. 其の八(目指せ！アンパンマン)

「あれ？今週は校長室便り、2枚出るの？」「負けたくないんです…笑」何号か前にアンパンマンにまつわる話を掲載しました。その勢いというわけでもないのですが、やなせたかしさんの評伝を一冊購入し、読んでみました。ご存じの方も多いかと思いますが、「♪ぼくらはみんな生きている。生きているから歌うんだ♪」そう『手のひらを太陽に』これもやなせたかしさんの作詞です。評伝を読み、やなせさんを知る中で、アンパンマンのマーチだけでなくこの歌からもやなせさんの生きることへの思いや願いが伝わってきました。朝の連ドラでも描かれているように、やなせさんは幼少期に実母と別れ、生活をしていくのですが、94歳で永眠するまで、この母の存在はやなせさんの人生に大きな影響を与えています。(主要キャラのドキンちゃん。外見はやなせさんの実母のイメージなのだそうです。)残されている詩の一節です。「ひとが生まれるとき おかあさんはくるしい 涙こぼしてひとが生まれる」そうやって授かる命の重さ、母子の愛、それを求めてやまなかったやなせさん。そんな思いが詩を通して伝わって来る気がします。評伝を読みながら、自分が子供の頃、親に求めていたもの、自分が親になって子供に与えることができたもの、一体どんなものだったのかなあといろいろな想いが頭をよぎりました。

東日本大震災の後、ラジオ番組へ「アンパンマンのマーチ」のリクエストがしばらく絶えなかったそうです。「そううれしいんだ 生きる喜び たとえ胸の傷が痛んでも」曲がかかると被災地の各所で子供たちの大合唱が起きたのだとか。それを見る大人たちもまたその姿を生きる希望につなげたそうです。これからはアンパンマンのようなじいちゃんになりたいなと本気で思う今日この頃です。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。